

情報・システム研究機構経営協議会（令和元年度第6回）議事要旨（案）

日 時：令和2年1月24日（金）15：30～17：30

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：安宅和人委員、五十嵐道子委員、國井秀子委員、安浦寛人委員、須江雅彦委員、長谷川眞理子委員、古谷研委員、藤井良一委員（議長）、津田敏隆委員、喜連川優委員、椿広計委員、坂口広志委員、中村卓司委員、花岡文雄委員

オブザーバー：鈴木久敏監事、横山良和監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【報告事項】

（1）研究費不正の再発防止について

藤井議長より、机上配付資料に基づき、研究費不正の再発防止に向けた機構内での検討状況について報告があった。

<意見概要>

●本人が研究に戻るチャンスはあるのか。

→ まだ若いので、これで終わりということではないと思っている。

●不正が行われた経費のうち、自己収入や寄付金、科研費は繰り越しが可能だが、本人はそれを知っていたのか？公費が少ない、ということはあったのか。

→ 研修を受講していたが、実際に繰り越していたかは不明。本人が任期付きであったこともあり、フィールド研究のためにキープしておきたかったことが考えられる。ただ、それは言い訳にはならない。

●本人に手法を教えた人がいないのか。

→ 調査の結果、そのような人はいなかった。

【審議事項】

（1）就業規則等の一部改正について

坂口委員より、資料1-1、1-2に基づき説明があり、審議の結果、過半数代表者の意見を聴取し、役員会にて審議することが了承された。

(2) 共同研究規則の改定について

坂口委員より、資料2-1、2-2に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

(3) 中期目標・中期計画の変更について

津田委員より、資料3-1～3-4に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

【報告事項】

(2) 令和2年度(2020年度)国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について

坂口委員より、資料4-1～4-4に基づき報告があった。また、椿委員より、机上配付資料に基づきデータ駆動型学術研究強化のための大学共同利用システム改革について補足説明があった。

<意見概要>

- 大学側の随所においてデータサイエンス関係を教える人が少ないため、出来るだけ早く教えられる人を増やす必要があり、当初の構想より規模は小さいがパイロット的に始めることが大事である。
- 全体の数がどれくらいになるのかを把握し、国全体のビジョンを作ることが大切である。大学でも横串を通して人を付けるという動きはある。
 - 大学共同利用機関としてのミッションは、大学全体に資することであるため、大学と連携して議論する場を作りたい。
 - 統計科学のコミュニティという面での強みはあるが、ネットワークを形成して意見調整を行うことは別問題である。
- このような取り組みはもっとやるべきだが、現状では2桁足りない。縦列的に展開する仕組みを作れないか。
 - 足りないが、国から予算が付いたということはセンターの設立を意味しており、機構としては責任が重い。今後如何に規模感を出していくかが課題である。
- データサイエンティストの育成の恩恵を受けるのは民間企業である。それを国の予算で全部教育するのは難しいため、民間企業のサポートの下に事業を進める、という枠組みを示してはどうか。
- 寄附を投入出来るようにして、人材育成のためお基金を集めるのはいかがか。企業ではなく、個人にアプローチすることがポイントである。

(3) 平成 30 事業年度における剰余金の使途の承認について

坂口委員より、資料 5 に基づき報告があった。

(4) 外部評価委員会の進捗状況について

津田委員より、資料 6 - 1 ~ 6 - 3 に基づき報告があった。

(5) 平成 30 事業年度の業務実績に係る評価結果について

津田委員より、資料 7 - 1 ~ 7 - 5 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 研究費不正はこの評価に関わってくるのか。再発防止策が不正というマイナスを打ち消せるような評価になると良い。

<フリーディスカッション>

●大学は評価疲れするくらい評価が多い。良い評価を受けても運営費交付金は減っているので評価の意味がなく、また見せ方が変わる。

●評価の結果、活動の成果が例えば科学技術白書等に掲載されることで専門家以外の多くの目に触れやすくなり、国民に対するメッセージとして、機構がどんなことをやっているのか知ってもらう機会になっているのではないかと。様々な評価があっても対応が大変だとは思いますが、現状がそうであるならば、一つ一つやるべきことを丁寧にやっていくことが重要であると考えます。

●機構として日本のベースを支えているというアピールはし続ける必要がある。外部評価委員からも言ってもらえると良い。

→ 共同利用・共同研究が学術の基礎を支えていることを強調したい。

●大学同士の連携を提起された際に、先に進められる大学だけでも機構がまとめられると良い。

→ 大学と違うミッションを持っていることを自覚して進めたい。

●アカデミアや大学以外の人脈を作って理解を得て戦略的な寄附（講座）受入を進めてはどうか。

→ ぜひ心得たい。

(次回の経営協議会の日程について)

- ・ 次回の経営協議会は、2020年3月19日(木) 13:30から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 第4回～第5回議事要旨
- ・ 就業規則等の改正事項(案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1-1】
- ・ 新旧対照表(案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1-2】
- ・ 共同研究規則の改定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料2-1】
- ・ 新旧対照表(共同研究規則)(案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料2-2】
- ・ 中期計画新旧対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3-1】
- ・ 中期目標・中期計画一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3-2】
- ・ 関係資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3-3】
- ・ 中期目標・中期計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3-4】
- ・ 令和元年度補正予算案及び令和2年度予算の伝達について・・・・・・・・・・【資料4-1】
- ・ 先端研究設備整備補助事業(情報科学分野)の公募について・・・・・・・・・・【資料4-2】
- ・ 先端研究設備整備補助事業(生命科学分野)の公募について・・・・・・・・・・【資料4-3】
- ・ 教育研究組織整備概要(継続拡充)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料4-4】
- ・ 平成30事業年度における剰余金の使途の承認・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料5】
- ・ 外部評価委員会(第1回)議事次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料6-1】
- ・ 令和元年度外部評価委員会出席者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料6-2】
- ・ 外部評価委員会(第2回)議事次第(案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料6-3】
- ・ 平成30年度に係る業務の実績に関する評価の結果について(通知)・・・・・・・・・・【資料7-1】
- ・ 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料7-2】
- ・ 国立大学法人及び大学共同利用機関法人の平成30年度に係る業務の実績に関する評価について(所見)・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料7-3】
- ・ 平成30年度評価結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料7-4】
- ・ 平成30年度評価に係る審議経過について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料7-5】